

学生の音楽能力に関する調査研究（3）

Research about the Musical Ability of Students（3）

（2013年3月31日受理）

太田正清

Masakiyo Ohta

Key words : 小学校音楽科教育, 音楽能力, 音楽能力調査, 音楽能力の発現時期

要 旨

この研究は中国学園紀要第9号の「学生の音楽能力に関する調査研究（2）」のデータの素材となった2009年度「音楽科教育法」を受講した学生との比較で行った部分を含んでいる。2012年度「音楽科教育法」受講学生に2012年9月（前調査）と2013年1月（後調査）に岐阜県小学校音楽部会基礎能力表作成委員会編の「音楽基礎能力調査」（実音を使用して行う）を実施した。2012年度の調査結果は2009年度と比較したし、2012年度の前調査と後調査でも比較した。

人は、10歳頃くらいまでに音楽の基礎教育（リズム・メロディ・ハーモニー等の鳴り響く音や音楽を即座に正確に把握し反応すること）をきちんと受けないと成人してからあらゆる音楽を楽しむことができにくい。こうしたことから考えても日本の多くの小学校音楽科授業は成功しているとは言い難い。高学年になって、女子児童はまだしも男子児童の多くは小学校で行われている8教科のなかで「音楽科授業」をいちばん好いていない。高学年になっても男子児童・女子児童ともに音楽活動が楽しくなるような音楽科の授業を低学年から積み上げていかなければならないと思う。

1. 学生に実施した音楽能力調査

2009年度後期、2012年度後期、子ども学科の「音楽科教育法」（2年次）において履修の学生に岐阜県小学校音楽部会基礎能力表作成委員会編の「音楽基礎能力調査」¹⁾（実音を使用して行う）を実施した。

現在の実音を使用しての「音楽基礎能力調査」は平成10年度の学習指導要領に準拠して作成された7つの項目を調査しようとしたものである。1. 拍子, 2. リズムフレーズ, 3. フレーズ, 4. 旋律の感じ, 5. 和声・和音, 6. 旋律との響き, 7. 視唱・視奏記号。

この「音楽基礎能力調査」が使いはじめられた昭和40年代には、当時の学習指導要領に準拠した次の8項目により構成されていた。1. フレーズ, 2. 調性, 3. 和音, 4. 身体反応, 5. 旋律リズム, 6. 合奏リズム, 7.

表1. 高学年音楽能力テストの構成

リズム	拍子	1番 5問
		2番 5問
リズム	リズムフレーズ	3番 5問
		4番 5問
旋律	フレーズ	5番 5問
		6番 5問
	旋律の感じ	7番 5問
		8番 5問
和声	和声・和音	9番 5問
		10番 5問
	旋律との響き	11番 5問
		12番 5問
視唱奏記譜	視唱・視奏記号	13番 5問
		14番 5問

メロディ， 8. 演奏曲。

(1) 実音による高学年 音楽能力テストの内容

この調査はCDに収録された実音を使用して行うものである。以下に録音されたナレーションや音楽を記してみる。

《高学年，音楽の調査を始めます》

1 番，曲を聴いて，何拍子の曲か聴き分けましょう。(静かにねむれ) 4 拍子でしたね。四角の中に4と書き入れましょう。このように，2拍子なら2，2拍子なら3，4拍子なら4，6拍子なら6と四角の中に書き入れましょう。では，始めます。(①勇気一つを友にして ②緑のロンド ③口ぶえふいて ④パールギュント「朝」 ⑤こきりこぶし)

2 番，次の曲は，どんな形で指揮をしたらいでしょうか。よく聴いて2拍子ならア，3拍子ならイ，4拍子ならウ，6拍子ならエというように，四角の中にア・イ・ウ・エを書き入れましょう。では，始めます。(①故郷の人々 ②グリーングリーン ③ゆかいなゆめ ④いるかの旅 ⑤ゆかいに歩けば)

3 番，元の節を弾いた後で，その節の拍子を変えて弾きます。よく聴いて何拍子に変わったかを聴き取りましょう。2拍子なら2，3拍子なら3，4拍子なら4，6拍子なら6の数字で書き入れましょう。はじめに練習してみましよう。

元の譜「山の朝」



2 拍子に変わりましたね。2と書き入れましょう。では，始めます。

- (曲名 口ぶえふいて ① ② ③ ④ ⑤)

4 番，曲を2回ずつ弾きます。2回目の演奏が1回目

より速いと感じたら○，遅いと感じたら×，変わらないと感じたら△を書きましょう。練習してみましょう。〈林の朝 ♩ =108 ♩ =92〉2 回目の演奏は，1 回目の演奏より遅くなっていましたね。×を書き入れましょう。では，始めます。(①口ぶえふいて ②星の世界 ③エーデルワイス ④創作曲 ⑤ねんねしなされ)

5 番，これから弾く曲を聴いて，フレーズごとに似た節，違う節を聞き取りましょう。4フレーズの曲「春の小川」で練習してみます。第1フレーズ(演奏)これは，元の節ですからaと書いてあります。第2フレーズ(演奏)これは，元の節と似ていますから，2つ目の□の中にa'と書き入れましょう。第3フレーズ(演奏)これは，元の節と違う節ですから，3つめの□の中にbと書き入れましょう。第4フレーズ(演奏)これは，元の節と似ていますから，4つ目の□の中にa'と書き入れましょう。このように，表現の仕方を聴き取って，それに合う記号を選びましょう。は，始めます。(①一日の終わり ②ぞうさん ③ぶんぶんぶん ④星の世界 ⑤口ぶえふいて)

6 番，表現の仕方を聴き取りましょう。これから，4小節の節を弾きます。(電子オルガンで「ふるさと」を演奏)今の演奏は，節が進むにつれて，アの記号のように，だんだん強くなるように表現しましたね。練習の□の中に，アと書き入れましょう。このように，表現の仕方を聴き取って，それに合う記号を選びましょう。では，始めます。(①ドレミのうた ②故郷の人々 ③とんび ④駅馬車 ⑤もろ人こぞりて) (ア, イ, ウ, エ, オ,)

7 番，「あおぞらたかくうたごえひびく」という歌詞にいろいろな節をつけます。それぞれ1箇所だけ，言葉と節の感じが合わないところがあります。その小節を見つける問題です。練習してみましょう。

(歌う)

3小節目の「うたごえ」(歌う)のところ unnatural でしたね。3小節目の()に×印をつけましょう。では，始めます。

練習

①
②
③
④
⑤

8番、これから弾く節は途中から節の感じが変わります。(演奏「禁じられた遊び」)短調から長調に変わりましたね。このように節の感じが短調から長調に変わったらち、長調から短調に変わったらタ、長調から日本の節に変わったらニの記号を書きましょう。では、始めます。(①夢をのせて ②雪の降る街を ③かっこう ④フェアランドール ⑤さあ太陽を呼んで来い)

9番、ピアノで○○○○○○○Vのリズムで和音を弾きます。答えの欄で、一箇所書いてないところがあります。書いてないところの和音はどの和音でしょうか。「ドミソ」(ピアノ音)なら1,「ドファラ」(ピアノ音)なら4,「シレソ」(ピアノ音)なら5,「シレファソ」(ピアノ音)なら7の数字を書き入れましょう。(全て長調)一度、練習してみましょう。(ピアノでI, IV, V, Iを弾く)書かれてないところの和音は「シレソ」でしたね。練習の欄に5と書きましょう。では、問題に移ります。問題は1回だけ弾きます。(1. I I I V 2. I I V V I 3. I V I V 4. I I V I 5. I V V V 7)

10番、9番と同じやり方です。短調の和音を聴いて「ラドミ」(ピアノ音)なら1,「ラレファ」(ピアノ音)なら4,「#ソシミ」(ピアノ音)なら5,「#ソシレミ」(ピアノ音)なら7の数字を書き入れましょう。では、始めます。(1. I I V I 2. I V I V 3. I I V I 4. I I V V I 5. I V I V)

11番、4小節の節を弾きます。譜と伴奏をよく聴いて

和音を聴き取り、空いているところに1, 4, 5, 7の数字を書き入れましょう。一度、練習してみましょう。第3小節目は「シレソ」の和音, 第4小節目は「ドミソ」の和音でしたね。練習のところに「51」と書き入れましょう。問題は長調と短調の両方出てきます。では、始めます。2回ずつ弾きます。(①静かに眠れ ②ふるさと ③星の世界 ④おちば ⑤創作曲)

12番、主旋律に副次的な旋律を加えて、二重唱や三重唱をします。響きの不自然な小節がひとつだけあります。響きの不自然な小節に一つだけ○をつけましょう。一度、練習してみましょう。響きの不自然な小節は、第2小節目でしたね。練習のところの「ど る」のところに○をつけます。(①ふるさと ②星の世界 ③エーデルワイス ④かりがわたる ⑤勇気一つを友にして)

13番、短い節をピアノで2回ずつ弾きます。楽譜と違った演奏をしている小節の番号に×を付けましょう。では、練習をしてみます。

(上の楽譜を3秒おいて2回繰り返して弾く)

今の演奏は、1回目の「ドレミラ」(音程をつけて歌う)を「ドレミファ」(音程をつけて歌う)と演奏していましたね。1に×を打ちましょう。では、始めます。(①創作曲へ長調 ②創作曲へ長調 ③創作曲へ長調 ④創作曲へ長調 ⑤創作曲へ短調)

14番、短い節をピアノで弾きます。その節を五線の上に音符で書き入れましょう。途中まで書いてありますから、続きを書きましょう。2回ずつ弾きます。では、始めます。(①創作曲へ長調・7音中3音記入 ②創作曲へ長調・7音中3音記入 ③創作曲へ長調・9音中4音記入 ④創作曲へ長調・7音中5音記入 ⑤創作曲へ長調・7音中5音記入)

2. 音楽能力調査の比較

実音による高学年音楽能力テスト(以下、音楽能力テスト)を2009年度後期「音楽科教育法」を履修した学生²⁾に

2回（2009年9月・2010年1月）実施した。以下、2009年9月実施を前調査、2010年1月実施を後調査と称する。また、結果の集計と考察を行ったのは2009年度2学年学生で前調査・後調査の2回の音楽能力テスト全箇所回答した学生のみとした。男子学生6名と女子学生6名合計12名であった。

今回は、2009年度2学年の学生と比較・考察するために20012年度2学年学生に同じ実音調査を実施した。デー

タを得られた男子学生は15名、女子学生は10名合計25名であった。

2009年度男子学生には09m1…、女子学生には09f1…、2012年度男子学生には12m1…、女子学生には12f1…で表示した。

結果は各項目、個人ともに100点満点で表示した。60点以上であれば、小学校高学年の音楽的能力（音楽的技能）をまづまづ習得したと考えられる。

表2. 調査結果（2009年度男子学生）

		リズム 1,2	リズム 3,4	旋律 5,6	旋律 7,8	和音 9,10	和音 11,12	視唱奏	個人 平均
前 調 査	09m1	53	36	79	30	87	14	9	44
	09m2	71	20	43	64	26	53	56	48
	09m3	22	36	92	64	87	53	91	64
	09m4	36	59	79	48	59	32	71	55
	09m5	11	82	79	64	41	14	71	52
	09m6	36	8	43	48	26	32	82	39
	平均	38	40	69	53	54	33	63	50
後 調 査	09m1	11	59	43	98	41	14	56	46
	09m2	11	59	79	91	41	32	71	55
	09m3	22	36	92	98	96	70	82	71
	09m4	22	59	79	91	41	84	82	65
	09m5	22	36	13	64	74	14	82	44
	09m6	22	36	79	64	74	53	87	59
	平均	18	48	64	84	61	45	77	57

表3. 調査結果（2009年度女子学生）

		リズム 1,2	リズム 3,4	旋律 5,6	旋律 7,8	和音 9,10	和音 11,12	視唱奏	個人 平均
前 調 査	09f 1	36	82	79	91	96	89	82	79
	09f 2	96	36	63	81	41	84	100	72
	09f 3	71	100	92	100	74	70	100	87
	09f 4	71	59	27	64	59	53	71	58
	09f 5	22	82	92	100	96	84	87	80
	09f 6	11	59	43	1	41	70	56	40
	平均	51	70	66	73	68	75	83	69
後 調 査	09f 1	71	94	43	98	96	94	87	83
	09f 2	53	99	100	81	99	89	100	89
	09f 3	53	94	100	98	87	94	97	89
	09f 4	22	94	79	91	59	32	87	66
	09f 5	46	62	100	100	100	53	82	78
	09f 6	22	36	79	14	87	84	71	56
	平均	45	80	84	80	88	74	87	77

表4. 調査結果（2012年度男子学生）

		リズム 1,2	リズム 3,4	旋律 5,6	旋律 7,8	和音 9,10	和音 11,12	視唱奏	個人 平均
前 調 査	12m 1	23	37	92	81	96	84	71	61
	12m 2	37	37	63	81	87	53	71	54
	12m 3	23	94	100	15	99	70	71	59
	12m 4	86	47	79	98	87	84	100	73
	12m 5	71	82	92	64	87	94	91	73
	12m 6	53	59	92	49	42	70	87	57
	12m 7	23	9	92	98	87	89	87	62
	12m 8	12	59	100	31	74	89	82	57
	12m 9	37	37	92	49	96	70	87	60
	12m10	37	59	79	31	96	70	93	59
	12m11	12	21	63	49	74	70	41	43
	12m12	5	59	92	81	96	70	56	59
	12m13	23	82	79	91	87	70	93	67
	12m14	23	37	44	15	59	70	82	43
	12m15	23	59	28	49	87	84	97	55
平均	33	52	79	59	84	76	81	59	
後 調 査	12m 1	90	62	100	88	98	92	91	78
	12m 2	47	62	98	71	80	95	72	66
	12m 3	53	59	44	64	42	53	56	47
	12m 4	53	94	92	98	87	70	97	74
	12m 5	37	82	92	64	100	89	93	70
	12m 6	79	62	87	37	98	92	83	68
	12m 7	47	43	100	94	65	92	91	67
	12m 8	47	81	100	71	89	99	89	73
	12m 9	30	95	100	37	47	47	89	57
	12m10	53	59	92	31	86	83	86	63
	12m11	23	59	92	91	99	89	87	69
	12m12	17	62	87	88	80	99	72	65
	12m13	23	59	100	15	100	70	93	59
	12m14	37	82	92	49	74	53	56	57
	12m15	7	81	100	37	96	92	98	66
平均	43	69	92	62	83	81	84	65	

表5. 調査結果（2012年度女子学生）

		リズム 1,2	リズム 3,4	旋律 5,6	旋律 7,8	和音 9,10	和音 11,12	視唱奏	個人 平均
前調査	12f 1	37	94	100	100	87	94	100	77
	12f 2	53	21	100	91	96	89	97	69
	12f 3	5	21	63	100	27	33	82	42
	12f 4	71	37	100	91	100	100	100	75
	12f 5	12	94	100	49	59	70	100	61
	12f 6	5	59	100	98	42	89	100	62
	12f 7	71	59	100	31	99	89	91	68
	12f 8	12	37	92	64	74	33	82	50
	12f 9	37	94	100	49	99	94	97	72
	12f10	12	59	100	81	96	89	87	67
	平均	32	58	96	75	78	78	94	64
後調査	12f 1	90	95	100	71	98	99	100	82
	12f 2	65	43	87	71	89	100	98	69
	12f 3	30	62	61	94	65	47	89	56
	12f 4	53	82	100	91	96	94	100	78
	12f 5	71	94	100	15	100	84	100	71
	12f 6	37	94	100	91	87	70	100	73
	12f 7	53	94	79	91	96	89	93	75
	12f 8	53	59	92	91	100	70	56	66
	12f 9	65	100	100	88	100	100	98	83
	12f10	17	43	98	99	100	92	91	69
	平均	53	77	92	80	93	85	93	72

3. 2012年度音楽能力調査の結果

まず最初に、2012年度の男子学生の結果から考察する。後調査の個人平均がいちばん高かった12m1であり、平均点は満点を100としての78であった。この調査は、2007年度から実施しているが、78点を獲得する男子学生は稀である。また、12m1は音楽の3要素リズム、メロディ、ハーモニーの各分野に関しバランスよく得点している。

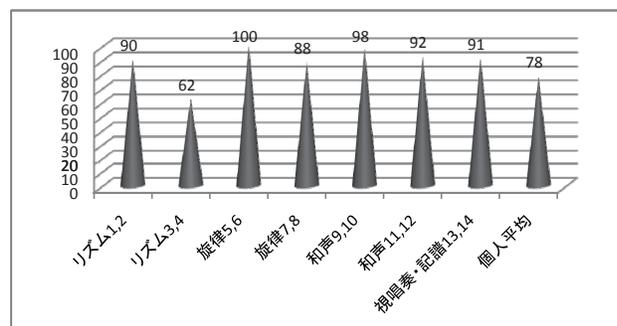


図1 12m1学生の後調査の結果

3要素のうち一つぐらいバランスが悪いのが大半であるなか12m1はかなりバランスがよい。

続いて、2012年度の女子学生の結果から考察する。後調査の個人平均がいちばん高かった12f9であり、平均点

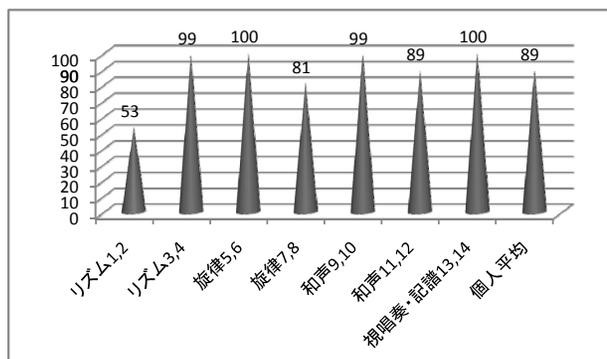


図2 12f9学生の後調査の結果

は満点を100としての83であった。この調査は、2007年度から実施しているが、83点を獲得する女子学生も稀である。また、12f9は音楽の3要素リズム、メロディ、ハーモニーの各分野に関しバランスよく得点している。3要素のうち一つぐらいバランスが悪いのが大半であるなか12f9は相当バランスがよい。

二番目に先述の12m1学生（男子）の前調査から後調査への音楽能力の伸長に関して考察する。まず、リズム1,2に関しては23点から90点へと伸長した。伸長率は391%である。リズム3,4に関しては37点から62点へと伸長した。伸長率は168%である。旋律5,6に関しては92点から100点へと伸長した。伸長率は109%である。旋律7,8に関しては81点から88点へと伸長した。伸長率

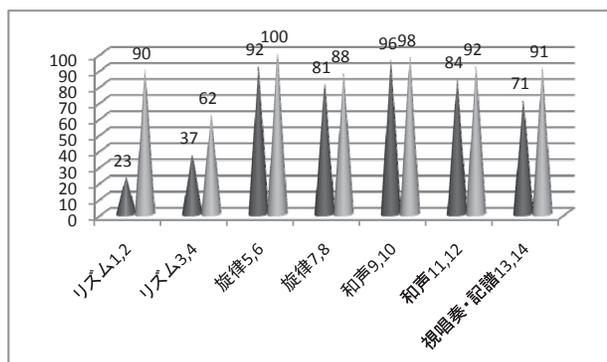


図3 12m1学生の音楽能力の前調査から後調査へ伸長

■前調査 ■後調査

は109%である。和声9,10に関しては96点から98点へと伸長した。伸長率は102%である。和声11,12に関しては84点から92点へと伸長した。伸長率は110%である。視唱奏・記譜13,14に関しては71点から91点へと伸長した。伸長率は128%である。

続いて先述の12f9学生(女子)の前調査から後調査への音楽能力の伸長に関して考察する。まず、リズム

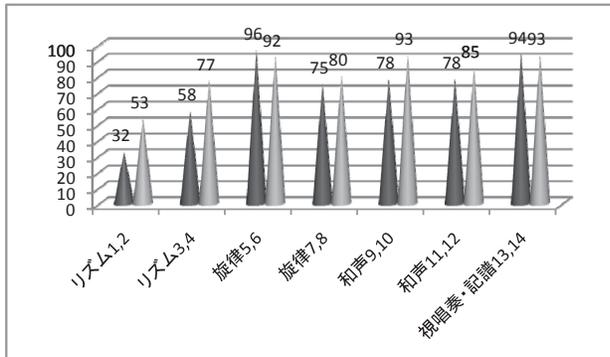


図4 12f9学生の音楽能力の前調査から後調査へ伸長
■前調査 ■後調査

1,2に関しては37点から65点へと伸長した。伸長率は176%である。リズム3,4に関しては94点から100点へと伸長した。伸長率は100%である。旋律5,6に関しては100点から100点へと伸長した。伸長率は109%である。旋律7,8に関しては49点から88点へと伸長した。伸長率は180%である。和声9,10に関しては99点から100点へと伸長した。伸長率は101%である。和声11,12に関しては89点から100点へと伸長した。伸長率は112%である。

視唱奏・記譜13,14に関しては97点から98点へと伸長した。伸長率は101%である。

4. 2012年度の学生と2009年度の学生とが身に付けた音楽能力の比較

(1) 男子学生の場合

2012年度の男子学生は2009年度の男子学生に比べて後調査では殆どの音楽能力は高かった。リズム1,2に関して2012年度の男子学生の後調査の得点は43点, 2009年度男子学生の得点は18点(239%)。リズム3,4に関して2012年度の男子学生の後調査の得点は69点, 2009年度男子学生の得点は48点(144%)。

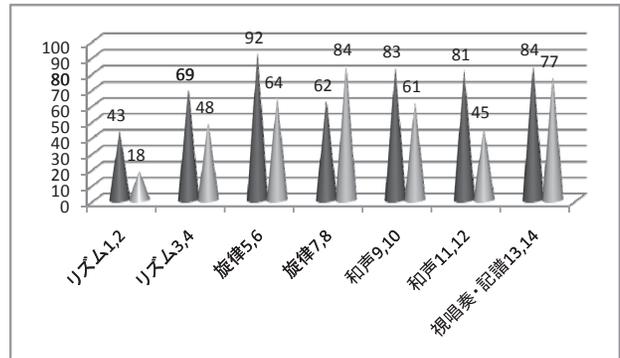


図5-1 2012年度2009年度男子学生の後調査の音楽能力の比較
■2012 ■2009

旋律5,6に関して2012年度の男子学生の後調査の得点は92点, 2009年度男子学生の得点は64点(144%)。

旋律7,8に関して2012年度の男子学生の後調査の得点は62点, 2009年度男子学生の得点は84点(74%)。

和声9,10に関して2012年度の男子学生の後調査の得点は83点, 2009年度男子学生の得点は61点(136%)。

和声11,12に関して2012年度の男子学生の後調査の得点は81点, 2009年度男子学生の得点は45点(180%)。

視唱奏・記譜に関して2012年度の男子学生の後調査の得点は84点, 2009年度男子学生の得点は77点(109%)。

(2) 女子学生の場合

2012年度の女子学生は2009年度の女子学生に比べて後調査ではわずかにばかり音楽能力は及ばなかった。

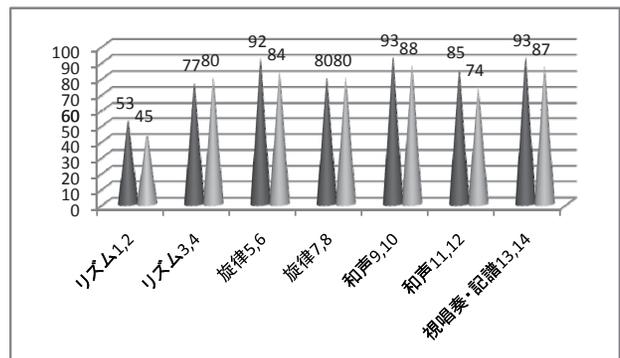


図5-2 2012年度2009年度女子学生の後調査の音楽能力の比較
■2012 ■2009

リズム1,2に関して2012年度の女子学生の後調査の得点は53点, 2009年度女子学生の得点は45点(118%)。

リズム3,4に関して2012年度の女子学生の後調査の得点は77点, 2009年度女子学生の得点は80点(96%)。

旋律 5, 6 に関して2012年度の女子学生の後調査の得点は92点, 2009年度女子学生の前調査の得点は84点 (110%)。

旋律 7, 8 に関して2012年度の女子学生の後調査の得点は80点, 2009年度女子学生の前調査の得点は80点 (100%)。

和声 9, 10 に関して2012年度の女子学生の後調査の得点は93点, 2009年度女子学生の前調査の得点は88点 (106%)。

和声 11, 12 に関して2012年度の女子学生の後調査の得点は85点, 2009年度女子学生の前調査の得点は74点 (115%)。

5. 小学生との比較

今回の調査と同じものを過去〇市内のK小学校6年生³⁾とS小学校6年生⁴⁾に実施したことがあるので比較して

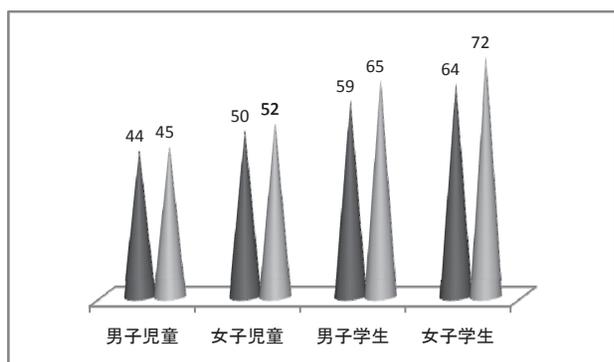


図 6-1 K小学校男女児童と本学男女学生との比較
■男子児童学生 ■女子児童学生

みたい。まず, K小学校6年生男女児童と本学男女学生とを比較したのが図6-1である。K小学校は小規模校である。調査できたのは, 6年生男子児童6名と女子児童11名であった。

次に, S小学校6年生児童と本学学生とを比較したものが図6-2である。

S小学校は平成14年度に中国・四国音楽教育大会の小学校部会の研究指定校(研究大会当日に音楽の授業を公開した)であり, 平成12年度からS校教員は全員で音楽の授業研究を行っていた。筆者はS小学校の6年生の音楽能力を平成13年度・14年度と調査した。結果は14年度の方が高かった。平成13年度までの岡山県の国公立小学校6年生で最高は〇大学教育学部附属小学校⁵⁾であったが, 平成14年度に限って言えば, 岡山市立S小学校であった。公立小学校であっても教員が一丸となって音楽の授業研究を行えば児童は必ずや小学校で修得すべき音

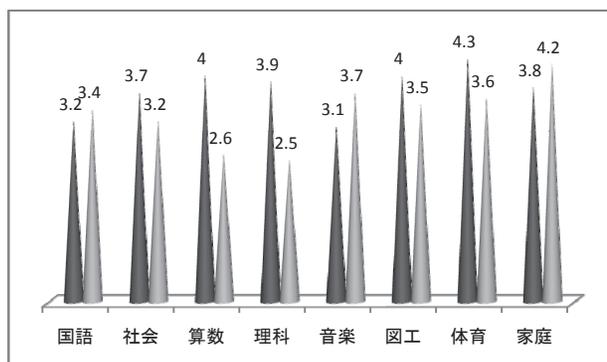


図 7 H小学校6年児童の教科の好き具合調査
■男子児童 ■女子児童

楽能力を修得すると思われる。音楽科に限ったことではないが, 同じ小学校の教員全員が6年間もの間同じ姿勢で児童の教育に取り組むことは至難の業である。

6. 音楽能力の発現・発達時期

供田⁶⁾は次のように述べている。HaeckerとZiehenの調査によれば, 音楽的能力は男女児ともに, 10歳までに発現するケースが圧倒的に多く, しかも10歳以降の減少が極めて急速だという事実がまず目につく。なおこの調査の内訳によれば, 「音楽的能力の発現は, 二つの大きなピークを形成しており, また10歳をピークとして, 次の11歳では急激な減少を示すが, 12歳でもう一度, わずかながらも盛り上がりを見せ, それ以降は下降の一途をたどる」という。

4歳ですでに驚異的ともいえる才能を発現させたといわれているモーツァルトの例をもちだすまでもなく, 音楽的能力は他の能力に比べて, その発現は極めてはやいとされている。しかし, その半面, それだけに減退の時期や速度もまた急速だというのが実態である。

7. 小学校音楽科授業の成果と課題

供田は小学校(特に1年~4年次)の音楽科授業が人の音楽的陶冶に極めて重要な役割を担わなければならないと述べているが, 日本の公立小学校において音楽学習の効果をあげている学校はどれくらいあるのでしょうか。筆者は, この逆, 小学校音楽科の授業で男子児童が悲鳴をあげている多くの学校を知っている。ちなみに下

図は、岡山市立H小学校6年生児童⁷⁾の8教科の授業について「教科の好き具合」に関して調べたものである。

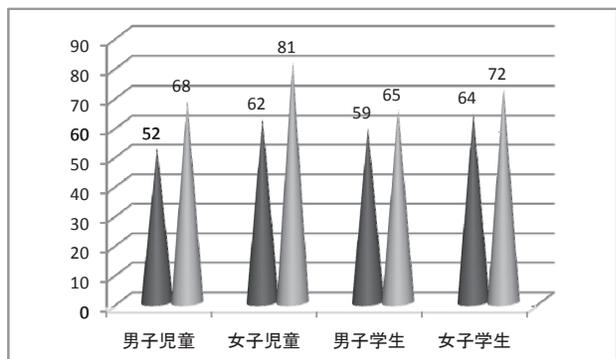


図 6-2 S小学校男女児童と本学男女学生との比較
■男子児童学生 ■女子児童学生

男子児童は8教科のうち“音楽”の授業を一番好いていない。推測だが、小1から小4までの音楽科の授業において実技・楽典とも児童にとって充分とは思えなかったのであろう。

次に述べることは上述したことの逆のこと。6年間の小学校音楽科の授業成果が十分に表れた場合について述べてみる。それは、山本弘が提唱した“ふしづくりの音楽教育”を実践した小学校が岐阜県にあった。ときは1970年代、岐阜県揖斐郡池田町立温知小学校⁸⁾であった。

この図8の温知小学校6年生児童は6年生として十分な音楽能力を獲得したことがわかる。図8の右列が岐阜県下の児童12万人のデータである。県の平均から読み取れることは、12万人の児童たちは1学年から6学年まで音楽の3要素である旋律リズム、旋律（メロディ）、和音の発達が見られない。詳述するとリズム、メロディ、ハーモニーに関しては1年生の段階で33点ぐらい獲得したが、6年生でも33点ぐらい程度しか獲得できていない。音楽の3要素に関しては、6年かかっても殆ど成果はみられない。

温知小学校児童の音楽能力獲得状況をみると1年生ではリズム、メロディ、ハーモニーに関しては岐阜県下児童と大差はないものの、6年生に関してはA組のハーモニーのみが70点ではあるが、B、C組は90点獲得している。リズムとメロディにかんしては3クラスともほぼ満点である。こうしたデータをみたのは、明治時代以降であればこの1970年代の岐阜県のごく限られた小学校のみである。

説明	1. フレーズ	⑤旋律リズム	第1年度 第2年度
	2. 調性	6. 合奏リズム	
	③和音	⑦メロディー	
	4. 身体反応	8. 演奏曲	

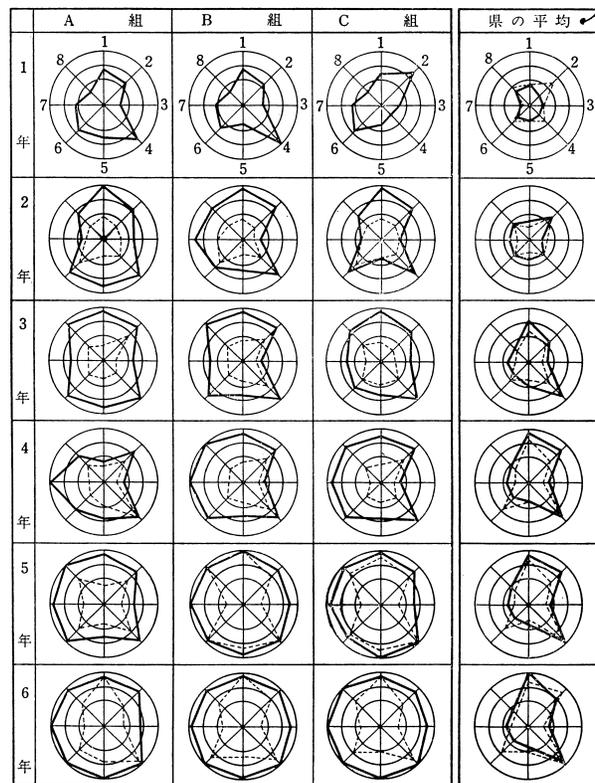


図 8 温知小学校学級別音楽能力表付県平均との比較

注

- 1) 岐阜県小学校音楽部会基礎能力表作成委員会 (1989) 「小学校音楽学習の手引き基礎能力表」日本音楽著作 権協会 (出) 許諾第9061066-0011号
- 2) 太田正清 (2010) 「中国学園紀要 第9号」, p. 110.
- 3) 太田正清 (2007～2008) 岡山市立K小学校6年生男子児童, 女子児童に音楽能力調査実施
- 4) 太田正清 (2002) 岡山市立S小学校6年生男子児童, 女子児童に音楽能力調査実施
- 5) 太田正清 (2001) 岡山大学教育学部附属O小学校6年生男子児童, 女子児童に音楽能力調査実施
- 6) 供田武嘉津 (1982) 「音楽教育学 成立への基調」 pp. 92～93.
- 7) 太田正清 (2002) 岡山市立H小学校6年生男子児童, 女子児童に教科の好き具合調査実施
- 8) 山本弘 (1971) 「音楽教育の診断と体質改善」 p. 87.